1版

様 式 F-7-2

4 . 発表年 2019年

## 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)実績報告書(研究実績報告書)

			機関番号	3 2 6 0 4	
所属研究機関名称		大妻女子大学			
研究 代表者	部局	家政学部			
	職	講師			
	氏名	坂田 哲人			
1.研究種目名		基盤研究(C)(一般) 2.	課題番号	17K04643	
3 . 研究課題名		保育者の成長志向性と組織要因との関連における保育者の成長モデルの構築に関する研究			
4 . 補助事業期間		平成 2 9 年度~令和元年度			
平成31年度(令和元年度)は、これまでの研究活動を通じて収集したデータを整理し、研究プロジェクトチームによる分析・レビューを実施し通じて明らかになったことのうち特筆すべきことは、保育者の専門性向上の段階や経験年数の蓄積に応じて、専門性向上のための方法(方略)や容が変容していくことである。保育者の成長プロセスが一律一定ではないということは、これまでもすでに各所で示唆されてはいたものの、本研 ことが具体的な項目や数値で示すことができた。 変容の具体的な内容としては次の通りである。まず、初任者の段階においては、経験者や管理者からの影響を強く受けながら成長していく様子る。経験を積んでくると、園内における指導体制に加え、専門的な知識や技能の獲得や、園の外部からの新しい知識や技能の獲得などに目が向けなっていく過程が示されている。 このように明らかにされた成長プロセスを前提としつつ、現状の人材育成上の課題をとらえると、さらなる課題が浮かび上がってくる。特に指ことは、現状においては、上述した成長段階に応じた学びの機会が、必要とされる時期に提供されておらず、むしろ一律の研修・育成モデルに依いることである。このことは、今後のさらな研究課題として取り組んでいく。 また、このような研究成果を以って、1、関係学会における発表(2回)において成果の提示を行うとともに、2、保育者向けの研修会(園外のらびに園内の研修)においては、これらの成果の提示に加えて、研修や人材育成の取り組みに向けての実践方法の検討・開発に取り組んだ。			略)や、その学びの内 、本研究を通じてこの は、様子が示されてい が向けられるように 特に指摘しておきたい がに依存してしまって ( 園外の集合型研修な		
6 . キーワード 保育者の専門性 キャリア 専門性開発 マネジメント					
7.研究発表 〔雑誌論文〕 計0件					
〔学会発表 1.発表表 坂田哲 <i>』</i>	者名	(うち招待講演 0件/うち国際学会 1件) 理子・今井豊彦・高橋優子			
2 . 発表標題 保育士の専門性向上をもたらす『学びの機会』の捉え方・あり方にかんする研究					
3 . 学会等 日本保		72回大会)			

## 【研究代表者・所属研究機関控】

## 日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

日本学術振興会に獣爆体で提出する必要はありません。 1 版
1 . 発表者名 井上眞理子・坂田哲人・今井豊彦・高橋優子
2 . 発表標題 保育者の人材育成・確保に影響を与える組織要因の分析
3.学会等名 日本保育学会(第72回大会)
4 . 発表年 2019年
1.発表者名 村井尚子・落合陽子・今井豊彦・坂田哲人
2.発表標題 日々の成長につながる保育実践のリフレクションの探究
3.学会等名 日本保育学会(第72回大会)
4 . 発表年 2019年
1 . 発表者名 Tetsuhito Sakata and Naoko Murai
2. 発表標題 The Meaning and Effects of Reflection Their Practices for Professional Development of ECE Teachers
3.学会等名 The 20th Pacific Early Childhood Education International Conference(国際学会)
4 . 発表年 2019年
1 . 発表者名 坂田哲人・村井尚子
2.発表標題 継続的なリフレクションの取り組みと保育者の省察性(リフレクティブネス)との関連性
3.学会等名 日本乳幼児教育学会(第29回)

4 . 発表年 2019年

1版

〔図書〕 計0件

8.研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件(うち出願0件/うち取得0件)

9.科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

10.本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

\_

11.備考

\_